

岩石薄片製作実習

期間：平成18年4月5日～7日

場所：理学部 特殊加工技術開発室
光学系試料製作部門 学生実習室

主催：理学部 地球惑星システム学科

内容：岩石薄片の基礎的な製作方法（岩石の切断・研磨・貼付等）の実習，および機械・器具等の取り扱い方法についての安全教育を行った。また，製作中に起こるケガ等は過去の事例に基づいてその都度説明を行った。なお，技術センター職員（石佐古早実）および大学院生が実習指導を担当した。

参加者：学生22名

放射線業務従事者に対する教育及び訓練

新規教育

期間：平成18年4月3日，17日，19日，20日，28日，5月22日，6月26日，7月10日，9月19日，10月16日，12月13日，14日，18日，平成19年1月10日，3月15日

場所：自然科学研究支援開発センター
アイソトープ総合部門

主催：自然科学研究支援開発センター

内容：放射線業務に従事する前又は管理区域に立ち入る前に行うもので，法令で6時間以上の教育訓練が義務付けられている。内容は，放射線の人体に与える影響，放射性同位元素等の安全取扱，放射線障害防止法，放射線障害予防規程の4項目が規定されている。講師は自然科学研究支援開発センター（中島覚助教授，稲田晋宣助手，松嶋亮人助手）及び技術センター職員（木庭亮二，寺元浩昭）。また，技術職員は学外施設，アイソトープ総合部門使用に際する諸注意等についての講義を担当した。

参加者：教職員，学生，大学院生，研究員など
合計140名

放射線業務従事者に対する教育及び訓練

継続教育

期間：平成18年4月24日，5月23日，6月20日，28日，7月19日，7月31日，11月20日，

場所：自然科学研究支援開発センター
アイソトープ総合部門

主催：自然科学研究支援開発センター

内容：新規教育訓練を受講し，放射線業務従事者となった者においては，立入り後1年を超えない期間毎に教育訓練を受講する必要がある。放射線取扱主任者が十分な知識及び技能を有していると認められた者については，項目の一部又は全部を省略することが可能となっており，一部を省略した形で実施した。講師は自然科学研究支援開発センター（中島覚助教授，稲田晋宣助手，松嶋亮人助手）及び技術センター職員（木庭亮二，寺元浩昭）。また，技術職員は施設使用に関する諸注意，試験問題の回答等についての講義等を担当した。

参加者：教職員，学生，大学院生，研究員など
合計186名

分析機器利用講習会

期間：平成18年5月15日～19日

場所：自然科学研究支援開発センター

主催：自然科学研究支援開発センター

低温・機器分析部門 物質科学機器分析部

内容：教職員・学生を対象に，基本的な機器分析技術の習得を目的として自然科学研究支援開発センターに設置している分析機器（電子プローブマイクロアナライザー・超伝導核磁気共鳴装置など）の操作方法及び分析の具体例を紹介した。技術センター職員2名（柴田恭宏，藤高仁）が指導スタッフとして参加した。

参加者：教職員，大学院生及び学部生52名

廃液回収システム講習会

期間：平成18年5月15日，5月30日，
7月20日，11月16日，11月28日
場所：環境安全センター，工学研究科 B4棟117
講義室，生物圏科学研究科 C-206講義
室，歯学部 B 棟2階第4講義室
主催：環境安全センター
内容：廃液回収を利用する教職員，学生を対象
とし，特に新しく赴任された方，初めて
実験廃液を出される方などには参加をお
願いし，廃液回収システムの講習会を实
施した．東広島キャンパスと霞キャンパ
スにおいて，それぞれ前期と後期に開催
した．約1時間かけて廃液の分別方法，
事務手続き，廃液回収日の手順，消防法
に係る安全上の注意点等を説明し，
質疑応答を行った．実施会場が東広島
キャンパスの場合には，環境安全セン
ターの排水及び廃液処理設備の見学も
行った．技術センター職員（坂下英樹）
は教員とともに講師として参加した．
参加者：教職員，大学院生及び学部生
計約150名

毒性可燃性ガス及び特殊高圧ガス使用に伴う保 護具講習会

期間：平成18年7月6日
場所：工学研究科管理棟大会議室
主催：工学研究科部局長支援グループ
内容：毒性可燃性ガス及び特殊高圧ガスの貯蔵
設備（シリンダーキャビネット）を有す
る施設においては，緊急時の対応として
保護具（空気呼吸器，防毒マスク，保護
衣，保護長靴及び防護手袋）を設置する
こととなっている．また，毒性可燃性ガ
ス及び特殊高圧ガス使用者は保護具の装
着訓練を行うとされている．工学研究科
では教職員・学生を対象に保護具説明会
及び装着訓練を実施した．

講習内容

- (1) 保護具説明会
説明者（株）シゲマツ製作所広島営業所
木村所長
- (2) 保護具装着訓練
指導者（株）シゲマツ製作所広島営業所2名
工学研究科管理棟大会議室にて，保護具
3組を準備し，使用方法等の指導を受け，
学生・教職員が実際に保護具を装着し
た．技術センター職員（清水 高）は保
護具装着指導スタッフとして参加した．
参加者：工学研究科36名，先端物質化学研究科
7名，合計43名

実用ガラス細工講習会

期間：平成18年8月1日～2日，8月7日～10日
場所：理学部 特殊加工技術開発室2F
ガラス素材応用部門
主催：技術センター理学部等部門
機器・試料製作技術班
内容：職員・学生を対象に，実験に使うガラス
器具の簡単な改良や修理など実用的なガ
ラス加工技術の習得を目的とした，基礎
となるガラス細工の実技講習会を開催し
た．技術センター職員（南治志，新谷博
志，佐藤勇，藤原雅志）が指導にあたっ
た．
参加者：大学院生および学部生 16名

大学院生のための金属工作実習

期間：平成18年8月7日～9日，11日
場所：理学部 特殊加工技術開発室 1F
金属素材応用部門
主催：技術センター理学部等部門
機器・試料製作技術班
内容：理学研究科・先端物質科学研究科の大学
院生を対象に，基本的な金属加工技術の
習得を目的として，当部門に設置してい
る工作機械（普通旋盤・フライス盤・

ボール盤など)の安全教育および取扱い方法、加工手順を指導して、参加者が文鎮を製作した。技術センター職員(村中正志、石飛義明、浅田竜也、岡本和也)が指導を行った。

参加者：大学院生および学部生 15名

第55回広島大学祭

「ビオトープで遊ぼう(水生昆虫の観察)」

期間：平成18年11月4日 8:30~17:30

場所：工学部ビオトープ周辺(角脇川護岸東側)

主催：技術センター

内容：第55回広島大学祭において、小学生・幼稚園児を対象とした地域社会の親子に自然豊かなキャンパスの情報公開と水生昆虫とのふれあいの場を提供することを目的に、「工学部ビオトープ」を会場として大学祭事業を実施した。

事業内容：

1. 虫取り網によるビオトープ内の水生昆虫の観察会
2. ビオトープ内の花菖蒲の株分け苗プレゼント
3. 事前に確保しているメダカプレゼント
技術センター職員(清水高、塩路恒生、青山幹男)が企画立案し、技術センター職員(向井一夫、輝平盛重、石原正文、村上義博、清水高、藤枝洋二、野口靖祐、寸田祐樹、坂下英樹、下岡丈次、塩路恒生、青山幹男、石佐古早実、村中正志、石飛義明、藤高仁)により事前にビオトープの清掃・整備を行った。大学祭の準備においては技術センター職員がポスター製作及び広報活動(地域の幼稚園・保育所への掲示依頼及び学内掲示)、会場看板製作(清水高、塩路恒生)、幼児用腰掛け椅子製作(島内信廣)を行った。大学祭当日は技術センター職員(向井一夫、

輝平盛重、清水高、寸田祐樹、坂下英樹、塩路恒生、青山幹男、石佐古早実、石飛義明、藤高仁)が会場準備・受付係・観察補助係・プレゼント係等を分担のうえ事業を実施した。

参加者：小学生37名、幼稚園児23名、幼児7名、大人101名 合計168名

工学研究科・生物圏科学研究科・国際協力研究科合同防災訓練

期間：平成18年12月14日

場所：工学研究科B4棟116講義室及びD5棟東広場

主催：工学研究科環境保全・安全衛生委員会

内容：非常災害(地震、火災)が発生した場合の生命・身体の安全を確保することや、被害を最小限に止めること及び非常災害時の初期消火等の要領を身につけるために、教職員・学生を対象に、3研究科(工学研究科・生物圏科学研究科・国際協力研究科)合同防災訓練を実施した。

訓練内容

1. 防災訓練 講演会 演題「防災と避難」
講演者 東広島市消防署
第一当直司令官 土井 孝氏
2. 消火器を使用した消火訓練
指導者 東広島市消防署員4名

工学研究科D5棟東側緑地帯広場で、消火器の使用方法等の指導を受け、学生・教職員20名が実際に消火器を使用した実演訓練を実施した。技術センター職員(清水高)が企画立案し、消防署への申請、講師派遣依頼、会場準備、3研究科担当者との連絡調整、防災訓練の司会進行を行った。

参加者：工学研究科65名、生物圏科学研究科31名、国際協力研究科15名 合計111名